

平成 22 年度 第 1 回礼文町生物多様性地域戦略策定検討委員会議事概要

日 時 平成 22 年 12 月 8 日 (水) 10:00 ~ 11:45

場 所 礼文町役場 3 階 大会議室

出席者 < 委員 >

小野委員長、柳谷委員、村上委員、宮本委員、藤沢委員、河原委員、古谷委員、
畠委員

< オブザーバー >

北海道地方環境事務所、宗谷森林管理署、宗谷総合振興局稚内建設管理部礼文出張所、
宗谷総合振興局保健環境部環境生活課、礼文町建設課

1 委嘱状交付

2 町長挨拶

- 小野徹礼文町長より挨拶。

【自己紹介】

- 委員及びオブザーバー自己紹介。
- 環境省北海道地方環境事務所・坂本統括自然保護企画官より、生物多様性を取り巻く国の状況、礼文町における生物多様性地域戦略策定の意義などについて説明。

< 坂本統括自然保護企画官より >

- 去る 10 月に名古屋にて「生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10)」が開催され、「名古屋議定書」などが採択された。
- 日本では、さまざまな生物・生態系と共生していくことを目指そうとしており、その指針を定めたものが「生物多様性国家戦略 2010」である。
- 生物多様性基本法の中では、国の「生物多様性国家戦略」のほか、地方の戦略として「生物多様性地域戦略」を策定することが定められている。
- 生物多様性地域戦略について、2 年後までに全都道府県が策定することを目標としている。市町村については可能なかぎり策定してもらいたいと考えているが、何を定めればよいのかわからないなど、取り組みがなかなか進んでいない。そのような中、環境省が「生物多様性地域戦略」を策定する市町村を支援することになり、礼文町から応募していただいた。
- 礼文町では、これまでもレブンアツモリソウ保護増殖の取り組みが行われてきた。これからはレブンアツモリソウの保護増殖だけでなく、より広い視点を持って生物多様性を議論する時期にさしかかっていると感じているとともに、それだけの素地があるとも感じている。
- 生物多様性地域戦略の策定は、地域の方々が中心となって、自分たちのものであるとの意識を持って取り組むものであり、その地域の取り組みを環境省ほか関係行政機関がお手伝いし

ていこうとするものである。礼文町でのこのようなモデルを「礼文モデル」として全国に発信することができれば、と考えている。

3 議題

礼文町生物多様性地域戦略策定検討委員会設立の趣旨説明

- 事務局より資料説明。

検討委員会会則について説明

- 事務局より資料説明、規約の内容について確認。〈異議なし〉
- 委員長代理として、宮本委員を選出。

検討委員会の予定事業について

- 事務局より、札幌ミーティングの開催、第2回目の検討委員会の開催（2月下旬を予定）作成する普及啓発資料等、今後の事業スケジュールについて資料説明。

委員よりの提案・報告

- 河原委員より「レブンアツモリソウ研究プロジェクトと礼文島生物多様性保全計画」について報告。
- 今後の戦略策定や進め方等に対する提案も含めた意見交換。

<意見交換>

（宮本委員）

- 礼文島の生物多様性の戦略の中心をどこに置くか、少しずつ的を絞っていかないと大雑把すぎるように感じている。生物多様性を維持するという面でも、レブンアツモリソウを含めた既存の希少な植物群落をいかに維持していくのが1つの課題、戦略の中心になると思うが、みなさんがどのように考えていらっしゃるのかお聞きしたい。

（村上委員）

- 先日、生物多様性をテーマとした町民学習交流会を実施した。参加者は10数名であったが、「生物多様性」がどういうものがよくわからない、という方が多いように見受けられた。
- 一般的に、それぞれの植物群落の違いの判別も難しいであろうし、また、植物群落だけを保全すればよい、というのも違うと感じる。生きもののつながり全体がわからないと、どのように守っていけばいいかわからない。研究者からも情報を仕入れながら、もう少し勉強していく必要があると感じている。

（宮本委員）

- 礼文島全体の植物群落を維持していくためには、当然他の生きものも関わりがある。礼文町内で対策が取れること、というところから考えた場合、礼文島全体の植物相を維持していくことが、そこに関わりのある他の生物全体をまもることにつながるのではないかと。
- 現状を維持していくことも大事だが、過去がどうであったかも重要である。盗掘によって失われたレブンアツモリソウの群落や山火事で失われた森林など。例えば、一度失われた森林

を復元するために国有林で造林が進められているが、今の進め方を継続するのがいいのか、ということも含めて考えなければならない。

- 植物群落を維持するためには、他の生きものも一緒に守ることが必要になってくる。議論のスタートは、どのように島全体の植物群落を維持していくかを中心に据えておくべきと考えている。

(畠委員)

- このところササの広がりが目立つようになってきた。時期に応じてササ刈りをしているが、ササ刈りはしてはいけない、という指示が以前あった。一方でササを刈ることによって、年による変動はあるが、高山植物が多く見られるようになる傾向がある。ササの広がりへの対処やササ刈りの可否等の考え方も位置づけてほしい。

(宗谷森林管理署：オブザーバー)

- レブンアツモリソウ保護増殖連絡会議の中で、横のつながりが欠けているのではないかとこの指摘を受け、事務関係者である礼文町、環境省稚内自然保護官事務所、森林管理署の3者で意見交換会を8月に実施した。レブンアツモリソウの保護という部分に特化するものにはあるが、今後もこのような横のつながりをもって取り組みを進めていきたいと考えている。

(村上委員)

- 町全体で「生物多様性となんだらう」、「礼文独自の生きものつながり」を知る・考える機会(フォーラムやシンポジウムなど)を設けたらいいのではないかと。

(宗谷総合振興局稚内建設管理部礼文出張所：オブザーバー)

- 地域版の計画を策定する導入部分としてレブンアツモリソウや植物群落を中心に据えるのはいいのでは、と感じた。レブンアツモリソウがあって、それを取り巻くさまざまな動植物、さらにそれを取り巻く我々が見えてくるのではないかと。
- 土木構造物を中心に扱うことが多く、それらを造ることによって空気、土壌、水に非常に大きな影響を及ぼすもの、との基本認識で事業を進めている。開発事業と生物多様性や自然保護は必ずしも相反するものでなく調和できるものと認識しているし、調和させていくように努めている。
- 開発事業で発生した土に含まれる種子を元に戻すといった工法を採用しており、外来種移入防止にもつながるものである。このような事例は多数あるので、今回の生物多様性地域戦略の中でこのような工法等を盛り込んでほしい。このような工法は他の工法に比べてコストがかかるものであるが、戦略の中で位置づけられることによって、地域の生物多様性に配慮した工法を継続して採用しやすくなる。

(宮本委員)

- 配慮事項を示した工事ルーパ的なものを作成するなど、新たな工事、これまでの工事、復元などに対する意見を述べる場を設けるような流れを作れないかと。

(礼文町建設課：オブザーバー)

- 地元の種を使った工事はコストがかかるが、地域の生物多様性を守るために必要な対処である。生物多様性地域戦略は、地域の意向を理解してもらうためのもの、発信していくための

ものにすべきである。

(環境省北海道地方環境事務所：オブザーバー)

- 「生物多様性」という言葉は難しい。国としては「生物多様性」を主流化したい、人々が無意識で対応している状態にしたいと考えている。
- 生物多様性を保全すれば礼文の魅力が高まることにつながり、観光の魅力が高まることになる。また、海の生物多様性が増せば、漁業も恵みを受けることになる。生物多様性と産業がどう結びつくのか、自分たちにとって何がいいのかを考え、「礼文のためにいいことしよう」という思いに基づいた取り組みが、生物多様性を高めることに結びついていけばよいと思う。
- 地域戦略の策定にあたって、あまり短絡的に結果を求めなくてよい。行動を起こせば結果はあとからついてくるものである。地域の考え方をもつようになれば、自ずと周りからの支援を受けやすくなる。

4 委員長挨拶

- 小野委員長より閉会の挨拶。

5 その他（諸連絡）

- 第2回検討委員会は2月下旬に開催し、普及啓発資料案、札幌ミーティング結果報告、計画の方向づけに向けた意見交換等を予定。

以上